

=====

美高からトータル・サティスファクションの 実現を目指して

=====

=====校長室より

第7号「無理！」の壁を超える

全校集会では次のような話をしました。

一般的には根治が困難な病気と闘っている友人からのショートメールを読み上げ、彼が1年後には自分がすっかり回復して、モリモリ食べているセルフイメージを持って闘病している様子をまず伝えました（友人の許可は得ています）。厳しい治療の下で自分の体に起こる現実を語りながらも、彼は必ず根治して戻ってくることを自分で明確に「決めて」いました。

目の前に起こることには、必ず意味がある。これは何か悪いことをしたら悪いことが起こること脅しのような話ではありません。「痛み」「不安」「恐怖」「心配」といったネガティブな感情を起こさせる現象も、自分たちに何かを伝えようとしている。こういった感情にとらわれすぎたり、これを無視したり逃避したりすることは正しい対応ではなく、私たちに求められるのは、こういった感情と向き合い、その先にあるものへ意識をむけることだということ。

そして、そのために必要なことは、彼のようにまず「未来の自分のありたい姿」を決めること。これが決まっていれば、今自分が感じている、「無理！」を引き寄せる「不安」や「心配」などのネガティブな感情もすべて、この先の自分に必要だからなのだと思うのだということ。

私たち大人を含めて人間の弱いところではあるのですが、こうした「自分でこうなる」と決める瞬間には、どうしても「無理なんじゃないか」「できなかったら恥をかくのではないか」というネガティブな想念はどこかに付きまといまいます。ここが大きな分かれ目。闘病中の彼のように追い込まれないとこれを取り去ることは難しいとすら感じます。

ここは本校の多くの生徒も突き当たる壁です。過去に周囲からの言葉を含めて自分に何度も刷り込んできた「無理！」という壁。ただ、この壁を「壊す」必要はありません。この壁はその時期の彼らを守るという役割があり、何度も傷つかないように心が学習すべきものとして、当時は必要だったのです。ただ、その「役割はもう終えている」と彼ら自身が気づき、その設定を変えること。これが大切だと生徒たちには伝えました。

本校では「無理！」を超えて、「自分軸で決める」力の大切さを機会があるごとに粘り強く生徒たちに訴えて、自ら付けていくことができるように取り組んでいます。



← 7月21日、国際会議場フェニックスホールでの探究発表会の様子です。毎年成長する生徒のプレゼンに感動しました。

「ここを満員にする！」と私は決めています！